

表 4-6 ソ連人戦時捕虜の収容、労働配置と餓死・病死

(単位：人)

	a. 捕虜総数	b. 収容所内生存者	c. 労働配置	c/a(%)	d. 死亡、逃亡、釈放 ³⁾
1942. 1	3,350,000 ¹⁾	1,163,203	147,736	4.4	2,039,061
1942. 7	4,369,930	1,233,365	317,642	7.3	2,818,923
1942.10			487,535		
1943. 1	5,003,697	1,501,145	493,761	9.9	3,008,791
1943. 7	5,478,191		505,975	9.2	
1943.11	5,548,973		564,692	10.2	
1944. 5			618,528		
1944. 8	5,691,748 ²⁾	1,054,820	631,559	11.1	4,005,369

注：1) 1942年12月現在。

2) 1944年7月現在。

3) $d = a - (b + c)$ 。釈放された数は、1944年5月までに、818,220人。

出所：Streit, Sozialpolitische Aspekte der Behandlung der sowjetischen Kriegsgefangenen.
in: W. Dlgoborski (Hrsg.), Zweiter Weltkrieg und sozialer Wandel, S. 193, Tab. 1.

万人のウクライナ人が釈放され、バルト三国の捕虜など二〇万人も釈放された。さらに、ありうべき重複計算を考慮しなければならぬ。しかしそれらを差し引いても、同年二月初旬までに減少した数は一二〇万人となる。会議参加者は、そんなにも多くのものが「これほどの短期間に殺されることなどありうるとは信じられなかった」という^(四)。

だが、表4-6でみるように、一九四二年一月の生存者（収容所内と労働配置）はさらに激減して約一三二万人となっている。これを一九四一年二月一〇日の生存者数二〇〇万人と対比すると、約七〇万人がわずか一カ月の間に飢餓と伝染病で死に追いやられることになる^(四)。ドイツ軍にとっての「冬の危機」が、捕虜の餓死と病死をいっきよに増大させたのである。

大量の餓死者がでているまっ最中の一九四一年一二月、パッケは、東部占領地域がドイツの食糧確保に貢献していることを強調した^(四)。いままでみてきたような、犠牲のうえに成り立った第三帝国の「ドイツ人のため」の食糧確保がどのような状態にあったか、その概観をみておくのは意味あることであろう。表4-7から明らかのように、ドイツ人においても、なるほど電撃戦の挫折後には、二四四五カロリーから一九二八カロリーに減ってはいる。しかし体勢

ドイツ第三帝国の ソ連占領政策と民衆 1941—1942

永岑三千輝 著

